

1 事業名等(Plan 1)

事業名	地域特産物発掘・育成事業											
所属名	農政部 農務課 農業振興グループ											
第七次総合計画	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして	分野	2	農業	基本 施策	1	個性ある農業生産地づくりを行う	施策	2	特色ある産地産品づくり
予算科目	5	1	3	農業振興	費	51333	地域特産物振興事業費補助金	事業				
					費			事業				
					費			事業				
根拠条例・実施要綱・担当部門計画等	高山市農業振興事業補助金交付要綱											
事業の実施主体	市	市以外	飛騨高山あぐらえ研究会、JAひだ花卉出荷組合菊部会、高山市そ菜出荷組合協議会									
事業の実施方法	直営	指定管理	業務委託	<input type="radio"/>	団体等補助	その他						

2 事業の目的・概要(Plan 2)

目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

目的	誰のために(対象)	地域特産物を生産する農業者組織	受益者数	3	団体			
概要	対象をどういう状態にしたいのか(意図)	地域の特色ある産地産品づくりを推進するため、特色ある農産物の掘り起こしを行い、それらの生産者組織を支援することで、地域特産物の生産拡大、高品質化、新商品開発を促進し、地域の活性化をめざす。						
概要	事業の実施手法、手順	農業者の組織する団体が、地域の特色を活かした新たな農産物を発掘するための研究や、生産拡大、高品質化を行うために要する経費に対し補助金を交付する。						
概要	事業始期・終期	始期	22	年度から	終期	年度まで	設定なし	<input type="radio"/>
今年度の改善・改革ポイント	前年度の評価結果、指示事項等を踏まえ記入 広く地域特産物の掘り起こしを行い、生産者組織が段階的にステップアップする支援制度に改善。 ステップ1「発掘支援(研究費支援)」・ステップ2「育成支援(生産拡大・高品質化支援)」・ステップ3「振興(新商品開発支援等)」							

3 事業費の推移・結果(Do)

【コスト面】		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
区分							
総合計画計画額(当初)		-	-	4,180	4,000	5,000	
総合計画計画額(計画額)		2,600	2,600	4,180	4,000	5,000	
事業費	予算額	2,500	3,500	4,180			
	決算・見込	2,403	1,234				
財源	国庫支出金	予算額					
		決算・見込					
	県支出金	予算額					
		決算・見込					
	地方債	予算額					
		決算・見込					
	受益者負担	予算額					
		決算・見込					
	繰入	予算額					
		決算・見込					
一般財源	予算額	2,500	3,500	4,180			
	決算・見込	2,403	1,234				
H17国勢調査 96,231人 32,174世帯 ※コスト→行政活動の単位当たり経費算出、変動を経年比較により、効率性評価							
コスト	受益者負担率(受益者負担/事業費)	単位	%				
コスト	市民1人当たりコスト(事業費/H17人口)	単位	円/人	25	13		
コスト	1世帯当たりコスト(事業費/H17世帯)	単位	円/世帯	75	38		
コスト	受益者1人当たりコスト(事業費/指標)	単位	円/人				
コスト	その他(空欄にコスト指標名記入、事業費をベースとして単位当たりコストを算出)	単位	円/人				

【成果面】

活動・成果指標	活動指標	投入した行政資源を使い、どんな活動を行ったか、どのようなサービスを市民に提供したかを表す指標	指標名	飛騨黄金(ひだこがね)生産量	資料・出展算出式	生産量 /	単位	千本
	成果指標	活動やサービスを行った結果、市民にどのような影響(効果)をどれだけ与えたかを表す指標	指標名	飛騨黄金(ひだこがね)販売額	資料・出展算出式	栽培面積 /	単位	千円

4 分析・評価(Check)

①事業の目的評価(事業の目的・概要に対する妥当性から事業の必要性を評価)	(現状及び判定理由)	生産者組織が生産・販売拡大に向けて自主的な活動を積極的に行い、生産と販売の両方に成果が上がっている。	A:非常に高い B:高い C:低い D:非常に低い	目的評価 A
②コスト面評価(事業費の推移、コスト指標の結果からコスト面を評価)	(判定理由)	平成20年度は宿儺かぼちゃのみを対象としていたが、さらに広く地域特産物の発掘を支援するため事業費を増加したことによるコスト増であり、相対的コストは増加していないと考える。	減少 維持 1 増加	③成果面 拡大 維持 減少 ○
③成果面評価(活動指標・成果指標から成果面を評価)	(判定理由)	飛騨黄金について、生産量、販売額の増加が見られる。 ※あぐらえ(えごま)については、H21に生産者組織を立ち上げたところであり、成果面評価はH22実績以降	拡大 1 維持 減少	コスト・成果ポジション B 第2水準

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第1水準」	→	I 「良い」	良好な水準を維持
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第2水準」	→	II 「やや良い」	「I」の水準に向けた改善が必要
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第3水準」	→	III 「普通」	「II」の水準に向けた改善が必要
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第4水準」	→	IV 「やや良くない」	「III」の水準に向けた改善が必要
目的評価「C・D」もしくはコスト・成果「第5水準」	→	V 「良くない」	「IV」の水準に向けた改善もしくは事業の休止、廃止などの検討が必要

分析・評価(Check)により明らかになった課題・問題点

今後の生産量、販売額等、支援効果を見ていくこととする。

5 今後の方向性(Action)

評価結果に対する改善提案(下記チェック)	現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・継続 <input checked="" type="checkbox"/> 終期設定 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/>
活動の方針	生産拡大に取組む生産組織(生産者)に対し目的に対する意識付けを行い、市(支所)、県、JA、市場、販売店など関係機関が一体となって支援することが必要である。
次年度の実施方針	引き続き、各地域の特産農作物の中から生産拡大の可能性のある品目について生産組織を支援し、生産拡大を図る。

一次評価 主管課	II
判断の理由	引き続き、各地域の特産農作物の中から生産拡大の可能性のある品目を選定し、生産組織を支援しながら生産拡大を図る。

総合評価	中 高 II
判断の理由等	「I」の水準に向けた改善が必要 本事業の効果は生産者の動機付けの成否にかかっており、経済的なインセンティブを含め、「やる気」の創出を図っていくことが重要である。経済的に成功した特産品開発の事例をつくることできれば、生産者の意欲は高まり、本事業がなくても特産品開発は自主的に行われるはずであり、まずは成功例をつくるのが重要である。